
僕の存在する理由。

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕の存在する理由。

【Nコード】

N5364M

【作者名】

【あらすじ】

『永遠』を信じるクールな少女・『蓮見耶 蓮』と『永遠』を信じないふわふわした女の子『鷹野 海晴』そんな二人の突然の話に蓮と幼馴染の『松原 爽茶』（まつばら そうた）が巻き込まれる。（話は、爽茶が主人公です。爽茶と海晴の絡みはありません。）

(前書き)

どうも。

です。

今回の話は『永遠』についてです。

なんだっけ。本当にこんな歌があっっておもいつきました。

そして、話がずれましたw w

ちなみに、爽茶の苗字は全然出てきません。

そんなんですが、よろしく願いますw

僕は。生きている意味があるんだろうか・・・？

永遠なんてないし、誰かの心に残らないなら・・・生きてる意味なんてあるんだろうか？？

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

「そーーた？？何してんの？」

こいつは、幼馴染の

蓮見耶はすみや 蓮れん

女子にしては珍しい名前だと思う。

髪の毛も地毛の金髪だし・・・。

「ん？？アリの観察・・・。」

「蟻？？なんでまた、そんなもんを・・・。」

蓮が苦笑しながら蟻のほうを見た。

「むっ・・・。別に？好きでやってるわけじゃないし！」

そんな風に僕がぶっきらぼうに言っても

「ふうん。」

で、終わり。特にそれに乗って怒るわけでもなく、ただそれだけ言う……。

「っていうかさ、まあ。そーたのやってることに興味があつてここに
いるわけじゃないんだけど……。」

ああ!! そうだろうね!!

「何? なんか用事があつて来たんじゃないのか??」

いったん蟻のほうを見るのをやめて、蓮を見ると……。

「そーたはさ……。『永遠』って信じる?」

は? 何だ……。その質問は……。

「は?? なんだよ。それ。」

「ん?? いや。この前さ。みーちゃんと話してたんだけど……。」

ちなみに、ミーちゃんとは、

たかの
鷹野 海晴 みはる

つて言つて、かなりのお嬢様だった気がする……。

なんだっけ?? 鷹野財閥? よく覚えてないけど……。

初めて、蓮に紹介された時のイメージは……。

ふわふわしてて、なんか・・・ぬいぐるみが生きてる発言をしそうな感じの子だったと思う・・・。

「んでね。みーちゃんが。『永遠なんてありえないんだよ。』とかいうからさ。そーたはどう思ってるのになって。」

-
-
-
- ?
- ?
- ?
- ?
- ?

「それは……どーいうシチュエーションだったのかな？」

「へ???どーいうって……。えっと……。確か、なんかの曲に。」

「僕らが集まれば永遠ができる」

「っていう歌詞があつて。」

……どういふ歌詞だ。……
……っていうか、何の歌だ……

「でね。その歌をみーちゃんと聞いてたら・・・。ミーちゃんが、そこで急に文句いいだして・・・。」永遠なんて存在しなあああああああああああいいいい！！！」
『つていうから・・・。』

おい。みーちゃんて、もつとふわふわしてて、たしか、お嬢様学校通ってて、そのお嬢様学校でも、特に金持ちで、制服めっちゃ改造してて、っていうかもう原型とどめてなくって、髪の毛なぜか白くって、なぜかいつも熊のぬいぐるみ抱えてて、目も垂れ目で、もう一回言っけど。

ぬいぐるみが生きてる発言をしそうな感じの子だったよね?!

なんで・・・なんで・・・。そんな現実的なの?!

「でね。うちが。『永遠は存在するよ。死んだって、人の心には残ってるでしょ?』って言ったら・・・。『ん?何言ってるんですか?みなさん。絶対に『永遠は存在しない!』って言いますわよ?』っていうんだよおお。どう思う?。」

・・・いや。どう思っつか・・・。

「・・・みーちゃんて・・・意外と現実的なんだな・・・。」

「むうううううそういう事が聞きたいんじゃないかって。そーたは『永遠は存在する』って思う??。」

・・・そこか??そこか??みーちゃんのそのギャップではなくって??

「俺は、『永遠』なんて存在しないとおもうね・・・。」

「ん?・・・なんでえええええ??。」

っていうか、もしかしくなくてもこいつのほうがギャップすごかったりするの??

俺は、幼馴染だからあんま感じなかったけど・・・。

「『なんで』って。決まってるだろ?『永遠』なんて存在しないよ。」

「むっむっむっ。存在するよ！！だつてさ！！」

「『人の心には存在する』って言いたいんだろうけど。俺はそうは思わないよ……。だつて、どれだけ有名な人でも、それを知ってる人が死んだり、伝えたつて、流行らなければ、消えていなくなっちゃうもんだろ？」

そう言うつと、あいつは軽く泣きそうになつて……。

「そんな……。こと……。ないよ！！だつて！！歴史人物だつているし！！徳川だつて！！藤原だつて！！卑弥呼だつて！！ちゃんと皆残つてるじゃん！！どんな人か知らなくつても！！顔だつて知つてるし！！」

そうやつて大声で叫ぶ。

「じゃあ？何か？書かれていればそれでOKか？！永遠つてそんなものか？！そんなものなら。俺は！！！永遠なんて！」

はっ……。何言つてるんだ？俺は……

「『永遠なんて』？」

やばい……。熱くなつちやつた……

「いや……。なんでもない……。」

そう言つてふいつと他のほうを向くと……。

「私は……。それでも……。そんなんでも永遠は存在してほしい……

」。

「？」

「もしも、本当に永遠なんて存在しなくつても・・・誰かの何かの心に・・・記憶に残っていてほしい・・・。それは、きっと永遠なんだと思うから・・・。」

そうやってぽつりぽつりと話し始める・・・。

「じゃあ・・・なんだよ。その人が、死んだら。どうすんだよ。人は永遠なんてなくて・・・死んで。お前の言うように教科書に載ったって・・・。」

何の意味もない・・・。

誰かの心に残ってなかったら・・・。

「・・・私は・・・教科書に乗りたいとは思ない・・・。」

そう言っ隣に座る蓮。

「ただ・・・教科書に載ったら、永遠になるきもする・・・。」

「だから！！それは、記憶に残っているだけで！！いつかは忘れ・・・。」

蓮がにこやかに笑った。

「教科書の人でも、もしかしたら・・・その生き方に感動を受ける

人がいるかもしれない。卑弥呼の生き方に感動してもしかしたら、それがきっかけで変われる人が存在するかもしれない。教科書に載らなくたって・・・その人が、それを誰かに伝えて、もしかしたら、その人も感動を受けて、それが広がっていくかもしれない・・・それって、すごい奇跡だなんて思うし、それってすごいことだと思う。それで、死んで、天国や、もしかしたら地獄に行つて、そこで、その尊敬する人に出会えて。そこで、『あなたのおかげで私は変わりました。』って言われたら、それって『永遠』になつてると思う。その人にとってそれは永遠なんだと思うんだ。そうやって、最後言われるように生きていきたいと思う・・・。」

。なんか・・・最後変わってないか？話の要点がずれてると思う・・・。

でも・・・。

「そう・・・だな。そうやって最後言われるように生きていこうか・・・。永遠を誰かに残せるように・・・。永遠になれるように・・・。」

。誰かのおかげで変われて、誰かを変えられるようなそんな永遠・・・。

「ん？ってことは、蓮。お前もっ、永遠になつたぞ。」

「？」

「だって・・・。」

お前が俺を変えたんだから・・・。

[illegible]

「あなたのおかげで変わったんだ。ありがとう。」

（後書き）

どうもです。

話が変わりましたねwwちなみに、最後は、皆様のご想像にお任せします。

爽茶が、蓮に言ったとらえてもいいですし、爽茶が誰かに言われたと考えてもらっても・・・自由にww

こんな終わり方ですが、最後まで読んでいただきありがとうございます。ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5364m/>

僕の存在する理由。

2011年1月8日23時52分発行